

平成28年度

運営に関する計画

最 終 評 価

大阪市立新北島中学校

1 学校運営の中期目標

中期目標

【視点 学力の向上】

- 「全国学力・学習状況調査」などの結果から、基礎的・基本的な学習内容が定着したと認められる生徒の割合を、平成24年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 「学校生活に関するアンケート」などの結果から、家庭学習の習慣づけができたと認められる保護者の割合を、平成24年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 「全国学力・学習状況調査」などの結果から、将来の夢や目標を持っていると認められる生徒の割合を、平成24年度より増やす。(カリキュラム改革関連)
- 「学校生活に関するアンケート」などの結果から、社会のルールを学んだと認められる生徒の割合を、平成24年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 「学校生活に関するアンケート」などの結果から、生命を尊重し、健康を管理する能力の育成が図られたと認められる生徒・保護者の割合を、平成24年度より増やす。(カリキュラム改革関連)
- 校内体力調査において、特に課題である「反復横跳び」「20mシャトルラン」の平均記録を、平成24年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果より全学年で向上させる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 教職員の資質・能力の向上】

- 「学校生活に関するアンケート」などの結果から、授業の改善が図られたと認められる生徒・保護者の割合を、平成24年度より増やす。(マネジメント改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ①平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果で、主として「知識」に関する問題の正答率を平成27年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ②平成28年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「子どもは、宿題以外に予習や復習等の家庭学習に取り組んでいる。」と答える保護者の割合を、平成27年度より向上させる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果から、「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答える生徒の割合を、平成27年度より向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ②平成28年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「命の大切さや社会のルールについて、十分に学んでいる。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合を、平成26年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ①平成28年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「自分の健康には気をつける。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合を、平成27年度より向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ②平成28年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、「20mシャトルラン（全身持久力）」の平均記録を、平成27年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 教職員の資質・能力の向上】

- ①平成28年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「授業がわかりやすい。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒・保護者の割合を、平成27年度より向上させる。(マネジメント改革関連)

【視点 学力の向上】

- ①「知識」に関する問題の正答率が昨年度より国語は 0.6 ポイント高く、数学は 5.7 ポイント低いが全国平均と比較すると国語は 1.6 ポイント上がっている。達成状況は B である。
- ②昨年度との比較では生徒は 2 ポイント低いが、保護者は 9 ポイント高い。さらに家庭学習の定着に重点をおき継続して指導する。

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成 28 年度実施「全国学力・学習状況調査」が未実施のため、達成状況は未記入である。
- ②昨年度との比較では 8 ポイント増である。結果と分析にあるように様々な取組を行った。道徳教育については充分とはいえないでの、達成状況は B である。

【視点 健康・体力の保持増進】

- ①昨年度との比較では 1 ポイント減であるがほぼ変わらず、今年度の前期・後期の比較では 7 ポイント増であるため、達成状況は B である。
- ②昨年度との比較では男子が 2 種目とも向上させたが、女子は 2 種目とも向上できなかつたので、達成状況は B である。

【視点 教職員の資質・能力の向上】

- ①生徒の比較では 4 ポイント減、保護者の比較では 5 ポイント増であるので達成状況は B である。今年度の前期・後期の生徒の比較では 1 ポイント増、保護者は 2 ポイント増である。

大阪市立新北島中学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標通りに達成した。
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ①平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果で、 <u>主として「知識」に関する問題の正答率を平成 27 年度より向上させる。</u> (カリキュラム改革関連) ②平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「宿題以外に予習や復習等の家庭学習に取り組んでいる。」と答える生徒・保護者の割合を、平成 27 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)	B B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
取り組み内容①【区分 ICT を活用した教育の推進】 ICT を活用した、わかりやすい授業づくりの実践研究をすすめる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 ICT を効果的に活用した指導法の研究をすすめ、全教科で ICT を活用した授業研究を実施する。	
取り組み内容②【区分 個に応じた学習指導の充実】 国語・数学・英語における少人数授業や授業時間外の個別指導を実施し、一人一人の生徒へのきめ細かい指導に取り組む。(カリキュラム改革関連)	B
指標 国語・数学・英語の各教科で、少人数授業を実施する。	
取り組み内容③【区分 言語力や論理的思考能力の育成】 朝の「読書タイム」の取り組みを充実させ、読書に親しむ生徒の育成を行う。(カリキュラム改革関連)	B
指標 今年度の「学校生活に関するアンケート」の結果で、「読書をする機会や時間が増えた」と答える生徒の割合を前年度よりも向上させる。	
取り組み内容④【区分 自主学習習慣の確立】(カリキュラム改革関連) 学校元気アップ地域本部事業と連携して、放課後等の図書室開放時に生徒の自主学習支援を行う。	B
指標 放課後等に各学年定期テスト(6 回)1 週間前の自主学習支援、及び 3 年生対象の自主学習会を開催し、年間 40 回以上の自主学習支援を実施する。	
年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析	
【年度目標の達成状況】 ①平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果では、「知識」に関する問題の正答率が平成 27 年度より国語は 0.6 ポイント高く、数学は 5.7 ポイント低い。全国平均と比較すると国語は 1.6 ポイント上がっている。平成 28 年度も引き続き各取組を充実させる。 ②平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果では、「子どもは、宿題以外に予習や復習等の家庭学習に取り組んでいる。」に「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答える生徒・保護者の割合が平成 27 年度後期と比べ、生徒は 2 ポイント低いが、保護者は 9 ポイント高い。さらに家庭学習の定着に重点をおき継続して指導する。	
【取り組み内容】 ①各教科で、研究授業を含め ICT を活用した授業を行った。また、ユニバーサルデザインを活用した「わかりやすい授業」づくりを、各教科で研究・実施した。 ②国語、数学、英語科は 1 年生の授業を中心において、それぞれ TT や習熟度別を含めた少人数授業を実施している。また、放課後の補習や自主学習会を活用して、生徒一人一人の理解度の把握することで、きめ細かい指導ができた。 ③平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果では「読書をする機会や時間が増えた」と答える生徒の割合が前期より 5 ポイント上がった。昼休みの図書館の開館において委員会活動との連携をさらに深め、また、各学年での朝の読書タイムを中心に「読書に親しむ」時間の確保を継続していく。 ④学校元気アップ地域本部と連携して、放課後の図書室開放を 1 月 18 日現在までに 26 回行った。また、図書室での自主学習会にいたっては 12 月までに 43 回行っている。2 月の 1,2 年生の学年末テスト前の自主学習会を合わせると、年度末には 80 回以上実施する予定である。	
今後の問題点	
①他校に比べても、充実した ICT 機器が整備されている状況にある。にもかかわらず、教員によって授業での使用状況に大きな偏りがある。来年度はタブレット端末が配置されることもあり、時代の要請・生徒達の変化に即して、使用を大幅に増やしていく。 ②今後、習熟度別を含めた少人数授業に加えて、グループ学習や話し合う活動も取り入れたアクティブラーニングの指導法を研究し、生徒達の学力の向上を図る。 ③図書館の利用者数が前期に比べて減少しているので、貸出図書の冊数を増やせるよう、委員会活動が活発になるような指導をしていく。「朝読」については、年度当初、学級活動が優先されることが多くなる傾向があるが、できるだけ意識的に全学年で時間の確保に努めていく必要がある。 ④元気アップコーディネーターの方や、支援員の方の協力もあり、開館日数が増えるとともに、利用生徒数も伸びている。区の学習サポート事業や市の図書館支援事業と連携してさらに、開館日数を増やしていく。	

大阪市立新北島中学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標通りに達成した。
C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ①平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果から、「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答える生徒の割合を、平成 27 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連) ②平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「命の大切さや社会のルールについて、十分に学んでいる。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合を、平成 27 年度より向上させる。	B
	(カリキュラム改革関連)

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
取り組み内容①【区分 キャリア教育の推進】(カリキュラム改革関連) 生徒の自己有用感の育成をめざし、地域社会に貢献する活動を取り入れたキャリア教育に取り組む。	A
指標 地域行事の参加や地域清掃活動等の地域社会貢献活動に取り組む生徒数を年間 200 人以上にする。	
取り組み内容②【区分 道徳教育の推進】 道徳教育の全体計画・年間指導計画に基づいて、道徳の授業研究を推進する。 (カリキュラム改革関連)	A
指標 道徳の授業研究を伴う校内研修を年間 5 回以上実施する。	
取り組み内容③【区分 特別支援教育の充実】(カリキュラム改革関連) 学校と重度障がい者多用雇用事業所との共同作業である「ふれあい緑化活動」に取り組む。	B
指標 「ふれあい緑化活動」を年間 3 回、各学期に実施する。	
取り組み内容④【区分 防災教育の推進】 支援者となって地域社会に貢献する態度を育てる防災教育を実施する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 防災に関する講話、体験学習等を年間 3 回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

- ①「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」の結果では、「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答える生徒の割合が 69.3% で、平成 27 年度より 5.7 ポイント低く、全国平均よりも 1.8 ポイント低い。引き続き、キャリア教育の体験活動等の取組を充実させ、平成 29 年度も継続的に取り組む。
②平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果では、「命の大切さや社会のルールについて、十分に学んでいる。に「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答える生徒の割合が 88% で、平成 27 年度後期より 1 ポイント高い。今後、道徳教育もさらに充実させる。

【取り組み内容について】

- ①地域行事の参加として、ボランティア清掃を定期テスト終了後に行っており、美化委員や部活動の生徒が 50 名以上参加している。また、生徒会、吹奏楽部や技術部や科学部が地域の行事の運営や作業の手伝い、地域での清掃活動、自然調査などを行っていて、合計延べ人数は 200 名を超えている。
②「みんなで生き方を考える道徳」「私たちの道徳」の精選した教材を活用して、道徳心や規範意識を培うように努めている。道徳の研究授業は 15 回実施した。
③緑化委員を中心に、1 学期は中間テスト後、2 学期は期末テスト後、3 学期は 2 月の学年末テスト後に実施。(計 3 回)
④7 月に「救急救命講習会」及び「熱中症対策講座」、11 月に「自衛消防訓練」、1 月に「津波を想定した避難訓練」を、12 月には「防災出前講座」1 年生対象に実施した。また冊子「みんなで備える防災」等による指導を行った。

今後の問題点

- ①ふれあい緑化活動と活動日が重なることがあるので、活動日を前もって調整し、生徒のボランティア活動が安全に行える教員の配置が必要である。また、今後は生徒数が減少するので地域のボランティア活動が活発に行えるように参加率の向上と、活動の意義について生徒にさらに意識づける必要がある。
②各学年の課題、改善点は次の通りである。1 年生は、それぞれのちがいを認め、その上でコミュニケーションをどうとつていかを考えさせていった。相手の立場に立って、思いやりのある行動をとれるように、丁寧な指導を心がけていく。2 年生は、何事も周囲の協力があって成し遂げられるが、それに対し、どう返していくかという部分で考えさせていった。来年卒業する学年として、他者にどう感謝の気持ちを表現していくかを考えさせていく。3 年生では、自分だけではなく、周りの人との理解をより深めていくにはどうすればいいかを考えさせていった。互いを思いやる心は育まれてきたが、しかしどこか他人行儀になる場面も見られるので、そこが改善すべき点である。年間指導計画にそって、各学年週 1 回の授業をおよそ実施することができた。来年度は授業内容の向上も含めて、学校全体で道徳教育を発展させていく。
③緑化委員を中心に苗の植え替えを実施したが、毎回ボランティアの応援も募り、午前中の活動として終えることができている。時間内に活動を終えるため、前もって、ボランティアの応援の要請が必要である。
④地域の人々とともに活動する取り組みを実施し、地域との連携を深めた防災活動にしていく必要がある。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標通りに達成した。
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ①平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「自分の健康には気をつける。」の項目について、「よく当たる」「ほぼ当たる」と答える生徒の割合を、平成 27 年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)	B
②平成 28 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、「20m シャトルラン (全身持久力)」の平均記録を、平成 27 年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
取り組み内容①【区分 健康な生活習慣の確立】 保健委員会等の生徒の主体的な活動をとおして、健康な生活や望ましい食習慣について指導する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 保健だよりや食育通信を利用した指導を月に 1 回程度行う。	
取り組み内容②【区分 健康に関する現代的課題への対応】 健康の自己管理の大切さについて、講話や保健だよりを活用して指導するとともに、保護者への啓発を行う。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 生徒対象に健康についての講話等を実施し、学校ホームページや「健康についての通信」で保護者に伝える。	
取り組み内容③【区分 体育科の授業の充実】 体育の授業に、全身持久力の向上が期待される種目のトレーニングを加える。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 体育の授業で、毎時間の補強運動に加えて、インターバル走を適時加える。	
取組内容④【区分 体育的活動の充実】 スポーツの楽しさを伝え、運動部に参加する生徒を増やすことで持久力の高い生徒を育てる。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 運動部の入部率を 50% 以上にする。	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

- ①平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果は、「自分の健康には気をつける。」に「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答える生徒の割合が 73% で、平成 27 年度後期より 5 ポイント低いので、引き続き学級・学年での保健指導を充実させる。
②平成 28 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の「20m シャトルラン (全身持久力)」は男子が 77.10 ポイント、女子が 53.54 ポイントで、平成 27 年度より、男子は約 4.8 ポイント、女子は約 6.5 ポイント高い。全身持久力を向上させるためにトレーニングの効果がみられ、さらに充実させていく。

【取り組み内容について】

- ①保健だより、食育通信を月 1 回発行し、学級や学年で健康な生活習慣と自己管理について指導してきた。また、保健委員会活動では毎月の保健目標の具体的な方策を話し合い、生徒会発行の委員会だよりや保健だよりで広報した。1 月は教室の空気の入れ替えの呼びかけを行った。
②集会や学級活動など学校生活の様々な場面で健康な生活習慣と自己管理の大切さについて指導している。保護者にも多種の通信やホームページで伝え、協力をお願いしてきた。
③補強運動でインターバル走は取り入れられなかったが、かわりにスクワットジャンプを加えて全身持久力の向上を図った。
④今年度の運動部加入率は 44% であり目標の 50% よりも 6 ポイント下回っているが、1, 2 年生の加入率をみると 49% となり向上傾向にある。

今後の問題点

- ① 「自分の健康には気をつける」と答える生徒の割合は多少下がっているが、平成 28 年度全国学力・学習状況調査では、本校生徒は基本的生活習慣はほぼ身についていると判断できるので、「何となく健康」な状態の生徒が多いと思われる。自分の生活を振り返り、健康を意識する機会を作ることで「自分の健康には気をつける」と答える生徒を増やし、自己管理の意識を育てていきたい。その機会を効果的に提供していくように方法を工夫していくことが課題である。また、基本的な生活習慣が崩れやすい背景にある生徒を把握し継続した支援を続けることも必要だと思われる。
②生徒や保護者に発信していく健康課題について、情報の内容や伝える手段が適切であるかを組織で検討し、工夫していくことが課題である。
③毎時間の補強運動のルーティンを無駄のないように徹底して行い、時間を確保するように努める。また、今後体育館の工事などで場所の確保が難しくなることが予想されるため、運動内容の工夫が必要である。
④現在も取り組んでいる、部活動体験や部活動見学で小学生に向けての活動を行い、中学校で専門的に学習することの楽しさや、その部活動ごとの取り組みを今後も発信していく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標通りに達成した。
C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況
【視点 教職員の資質・能力の向上】 ①平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「授業がわかりやすい。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒・保護者の割合を、平成 27 年度より向上させる。 (マネジメント改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
取り組み内容①【区分 小・中学校の系統的な指導の充実】 わかりやすい授業づくりを推進するため、小・中学校 9 年間の系統的な指導について実践研究を行う。 (マネジメント改革関連)	B
指標 小学校への出前授業を年間 5 回以上、小・中学校の教頭、教務主任、教科担当教員等の打合せ会を年間 5 回以上実施する。	
取り組み内容②【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】 学び続ける教員サポート事業を活用して、全教員が授業研究を伴う校内研修に取り組む。 (マネジメント改革関連)	A
指標 授業改善に向けたテーマ設定を行い、全教員が年間 1 回以上研究授業を実施する。	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 ① 平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果では、「授業がわかりやすい。」の項目について、「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」の合計が、平成 27 年度後期と比較して、 <u>生徒は 1 ポイント低く (H28 : 69%、H27 : 70%)</u> 、 <u>保護者は 7 ポイント高く (H28 : 52%、H27 : 45%)</u> なった。平成 25 年度よりすすめている I C T を活用した「わかりやすい授業」づくりの成果を受けてさらに研究を進め、今後も、研究授業・ワークショップ型の研究協議を充実させ授業力の向上を図る。
【取り組み内容について】 ①小学校への出前授業を英語科で行った。教科指導に関する小学校との連携については、英語科で連携を行った。また、小中での連携をさらに深めるために、教頭打ち合わせ、教務主任の打ち合わせを実施した。さらに、小中連絡会を 2 月・3 月に計 4 回行う。部活動関係でも、陸上部と科学部で出前授業を行った。
②今年度も全教員の研究授業を計画し、毎学期に研究授業とワークショップ型研究協議を行った。
今後の問題点
①両小学校との連携については、上記以外にも研究授業の相互参観等充実している部分もある。しかし、中学校教員と小学教員で教科指導上の面などで綿密な連携が取れているとは言い難い。来年度は小学校教員が交流に協力しやすいテーマ設定や状況設定を考えていかなければならない。
②研究授業 D A Y が定着し、一定の成果は上がっていると思われるが、今後さらに I C T を活用した授業や言語活動を取り入れた授業実践を推進する。また、研究授業 D A Y では、空き時間との関係から、参観、協議の参加率が低い場合があったので、一層の充実に向けた改善が必要である。

成28年度 学校関係者評価報告書 最終評価

大阪市立新北島中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 「運営に関する計画・自己評価」で研究授業を充実させ「わかりやすい授業づくり」に取り組んでいる。家庭学習の定着を図り、キャリア教育の充実を図ることで学力向上をめざす課題が明らかになった。
- 全国学力・学習状況調査及び授業・学校生活アンケートの結果で、成果・課題を理解できた。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果で、成果・課題を理解できた。

2 年度目標ごとの評価

年度目標 :【視点 学力の向上】

- ① 平成 28 年度全国学力・学習状況調査」の結果で、主として「知識」に関する問題の正答率を平成 27 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ② 平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「子どもは、宿題以外に予習や復習等の家庭学習に取り組んでいる。」と答える保護者の割合を、平成 27 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【年度目標】について

- ①平成 28 年度全国学力・学習状況調査」の結果では、「知識」に関する問題の正答率が平成 27 年度より国語は 0.6 ポイント高く、数学は 5.7 ポイント低い。全国平均と比較すると国語は 1.6 ポイント上がっている。平成 28 年度も引き続き各取組を充実させる。
- ②平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果では、「子どもは、宿題以外に予習や復習等の家庭学習に取り組んでいる。」に「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答える生徒・保護者の割合が平成 27 年度後期と比べ、生徒は 2 ポイント低いが、保護者は 9 ポイント高い。さらに家庭学習の定着に重点をおき継続して指導する。

年度目標 :【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 平成 28 年度全国学力・学習状況調査」の結果から、「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答える生徒の割合を、平成 27 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ② 平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の後期結果から、「命の大切さや社会のルールについて、十分に学んでいる。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合を、平成 27 年度後期より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【年度目標】について

- ①「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」の結果では、「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答える生徒の割合が 69.3% で、平成 27 年度より 5.7 ポイント低く、全国平均よりも 1.8 ポイント低い。引き続き、キャリア教育の体験活動等の取組を充実させ、平成 29 年度も継続的に取り組む。
- ②平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果では、「命の大切さや社会のルールについて、十分に学んでいる。に「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答える生徒の割合が 88% で、平成 27 年度後期より 1 ポイント高い。今後、道徳教育もさらに充実させる。

年度目標：【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の後期結果から、「自分の健康には気をつける。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合を、平成 27 年度前期より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、「20m シャトルラン（全身持久力）」の平均記録を、平成 27 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【年度目標】について

- 平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果は、「自分の健康には気をつける。」に「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答える生徒の割合が 73% で、平成 27 年度後期より 5 ポイント低いので、引き続き学級・学年での保健指導を充実させる。
- 平成 28 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の「20m シャトルラン（全身持久力）」は男子が 77.10 ポイント、女子が 53.54 ポイントで、平成 27 年度より、男子は約 4.8 ポイント、女子は約 6.5 ポイント高い。全身持久力を向上させるためにトレーニングの効果がみられ、さらに充実させていく。

【視点 教職員の資質・能力の向上】

- 平成 28 年度「学校生活に関するアンケート」の結果から、「授業がわかりやすい。」の項目について、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒・保護者の割合を、平成 27 年度より向上させる。(マネジメント改革関連)

【年度目標】について

- 平成 28 年度後期の「学校生活に関するアンケート」の結果では、「授業がわかりやすい。」の項目について、「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」の合計が、平成 27 年度後期と比較して、生徒は 1 ポイント低く (H28 : 69%、H27 : 70%)、保護者は 7 ポイント高く (H28 : 52%、H27 : 45%) なった。平成 25 年度よりすすめている I C T を活用した「わかりやすい授業」つくりの成果を受けてさらに研究を進め、今後も、研究授業・ワークショップ型の研究協議を充実させ授業力の向上を図る。

3 今後の学校運営についての意見

- 学力の向上をさらに図ってほしい。
- 中学生の、地域活動への参加を勧めてほしい。
- 部活動をとおした地域活動やボランティアの参加をしてもらっている。
- 放課後等の学習支援による自主学習会は参加人数、回数ともに増えている。
- H P だけでなく紙ベースで学校の活動を地域に発信してほしい。
- 今年度の課題に対する来年度の取り組みのよって課題解決を進めていただきたい。

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	生徒間のもめごとが発生したが、生活指導担当を中心とした生徒への指導、保護者への説明ができ解決している。
② いじめの状況等	①全校・学年集会、学級指導などでの声かけでの生徒からの訴えによる聞き取り②「いじめに関するアンケート」相談で実態の把握③生徒の交友関係の状況を様々な場面をとおして把握し、教職員が共通理解を図ることで、いじめを生じさせない学校経営を実践している。いじめと認められる状況をつかんだら、迅速にその生徒に合わせた指導を行い解決することができた。
③小・中学校における不登校の状況等	不登校になった原因は様々であるが、生徒のおかれている状況などを保護者と連携して把握に努めている。すぐには状況が改善されないこともあるが、粘り強く地道に働きかけている。そのことによって登校できるきっかけをつかみ、出席日数が増えてきた生徒もでできている。

教育活動の展開

1. 学力の向上 教科指導の充実
2. 道徳心・社会性の育成
 - (1) 道徳教育の推進
 - (2) キャリア教育の推進
 - (3) 人権を尊重する教育の推進
 - (4) いじめ・問題行動に対応する制度の確立
 - (5) 特別支援教育の充実
3. 健康に関する現代的課題への対応
4. 教育環境の整備
5. 教育課程の編成
6. 校内組織構成
7. 年間行事予定

1. 学力の向上 教科指導の充実

① 国語

目標：基礎的な学力の定着から、言語力の育成を図る。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 基礎的な漢字の読み書きができるよう指導する。	B
② 幅広い分野の文章にふれることにより、自分の意見・考えを伝える力（書く力・話す力）の育成に努める。	B
③ 少人数授業を取り入れ、きめ細かい指導に努める。	A

結果と分析

①各学年、副教材の「新常用漢字 2136」を家庭学習の課題として用い、基本的な漢字学習の指導を行った。その他、既習漢字の定期テストへの出題や補足プリントを使用するなど、学年ごとに様々な方法での指導を工夫した。ところが、基本的な漢字の読み書きが定着する層もいる反面、なかなか定着しない層も見られ、今後も継続的な粘り強い指導が必要であると感じた。

②教科書の文章にとどまらず、他の資料に基づく文章の紹介や物語の読み聞かせを行うなど、幅広いジャンルの文章に触れられるように工夫した。また、各单元において、あるいは定期テストなどで筆者の主張や自分の考えを記述させる練習も適宜行った。結果として、書くことに対する習慣は定着しつつあると感じるが、内容や表記については課題の残る生徒が多い。

③文法事項や書写など、单元を精選して少人数学習での指導を行った。その結果、一人一人きめ細やかに指導することができ、生徒も質問しやすい雰囲気で授業を進めることができた。

次年度への改善点

①小テスト等を用いて、インプットとアウトプットの回数をできるだけ増やす努力をする。また、「漢字」の課題に特化せず、ノート点検等で日常的な漢字指導を行い、生徒の意識向上を促す。

②幅広いジャンルの文章に触れるだけではなく、それらの読解を通して意見を整理し、記述する指導を行う。また、スピーチ等の機会を設け、話すことによるコミュニケーション能力も向上させたい。それらの指導においては、アクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が主体的に活動する授業展開を工夫する。

③少人数授業を継続して行い、きめ細やかな指導を心がける。また、少人数授業の方法やそこで実施する単元の精選にさらにつとめ、より効果的な授業展開を工夫する。

②社会

目標：基礎学力の定着に努める。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 生徒にとってわかりやすい授業を展開する。	B
② 資料集・新聞等を活用し、授業に深みや幅を持たせる。	A
③ 基礎的、基本的事項を身につけさせる。	B

結果と分析

- ①生徒にわかりやすい授業を展開するために、視覚的効果（ICT・拡大資料など）を用いた授業展開を心がけた。また、導入部分で生徒が関心をもちやすい話題から、展開・まとめへつなげることで、社会科に対する興味も高められるよう工夫した。
- ②新聞資料で時事問題を提示したり、資料集等を活用して授業内容の充実をはかることで、社会科全般における幅広い情報を提供できるよう工夫し、授業に深みや幅を持たせられるよう工夫した。
- ③基本的な学習内容の定着のために、小テストを実施したり、復習のためのまとめプリントを配布したりした。しかし、定期テストなどの結果を見ると、定着している生徒もいる反面、まだ定着できていない生徒もいるため、さらに工夫が必要であると思われる。

次年度への改善点

- ①来年度からは、全教室にビッグパッドが導入されるため、ICT機器をさらに活用できるよう継続して使用するとともに、拡大資料や実物資料なども継続して取り入れることによって、よりわかりやすく、興味・関心を高めた授業が実施できるよう工夫する。
- ②今後も、新聞資料や資料集を活用することで、社会全般に関する事柄について幅広く情報を提供し、より授業に深みと幅を持たせられるよう工夫する。
- ③基礎的・基本的事項の定着のために、小テストの実施や語句の確認作業などは継続して行う。また、今年度は3年生の授業において、授業時間数週4時間のうち、3時間を公民の学習にあて、残り1時間を演習授業として1・2年生時の復習内容を扱った。この演習授業を実施することにより、基礎的事項の定着をはかることができたと思われるため、今後も継続して実施したい。

③数学

目標：基礎学力を充実させ、自ら学ぶ意欲を育てる。

④理科

目標：基礎学力を充実させ、自ら学ぶ意欲を育てる。

取り組み内容（指標）	達成状況	
① 興味関心を高められるような実験観察などの体験的学習を行う。	A	
② 小テスト、プリント、レポートなどで、基礎的な学力を定着させる。	B	
③ 教育課程に対応した教材やプリントなどを用意する。	B	
④ 理科室、準備室の物品（実験器具、薬品）の整理・整備を行う。	B	B
⑤ プロジェクターと電子黒板の活用を図る。	B	
結果と分析		
① 実験を定期的に行い、興味関心を持たすことができた。		
② テストやプリント、レポートなど実施して、掲示などを行った。今後、より充実させていく。正答率は分野によって異なり、計算の範囲はなかなか高い正答率は得られなかった。		
③ 教材やプリントの蓄積を図った。さらに充実させていく。		
④ 整理をすすめはじめた。今後、整理・整備を引き続き進めていく。		
⑤ 第2理科室に電子黒板を常備していて使用し、プロジェクターの使用を行った。今後、効果的な使用についてより研究する。パワーポイントの使用により、実験手順の説明時間の省略に成功することができた。		
次年度への改善点		
① 実験・観察方法の検討、スキルの向上		
② ③ 小テストやプリント、レポートなどの共有化を図る。		
④ 理科室・準備室の整理と実験器具の整備をおこなう。		
⑤ 教室の簡易型電子黒板の対応などを考える。		

⑤英語

目標：基礎学力の向上と自ら学ぶ意欲を育てる。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 既習の学習内容の定着を図るため、通常の授業でも復習的なものを取り入れる	B
② 視聴覚教材を取り入れ、英語に対する興味関心を促し、学習内容の定着を図る。	B
③ 少人数授業を行い、個人にあった学習指導を行う。	B
④ C-NET との TT を通じて外国の文化に触れ、国際理解を促す。	B

結果と分析

①授業の最初の帶活動として、1年生では small talk 、2年生では Hi Bye カードや英会話 DVD 教材、3年生では「読みトレ」という長文読解練習を行うことで、既習事項の再確認と定着を図った。また関連する文法事項や単語・表現を確認しながら授業を進め、また必要に応じて単語テストや小テスト、課題プリントを行うことで確実な定着を図っている。

②プロジェクターや書画カメラなどを使い、文法導入や教科書導入を行うことで、英語や国際文化への興味関心を高めるとともに口頭での発話も多く取り入れている。

③1人の教員が1つの学年を見るのではなく、各学年2名以上の教員が担当して、より細かな指導を行っている。

④今年度担当が変わり、既習事項を用いたグループアクティビティや発話練習をたくさん行っている。生徒たちの反応もよく、英語が苦手であっても楽しく取り組めるような授業内容の工夫を今後も行っていきたい。

次年度への改善点

①英検 IBA では、語彙・文法などの知識面で課題があったため、授業内でも単語テストや学期ごとの小テストなどを定期的に行い、基礎知識の定着を図っていく。

②次年度はデジタル教科書やタブレット教材を定期的に使用していきたい。

③習熟度別少人数授業の回数をより増やす。

④校区小学校との連携や打ち合わせを密に行い、教材や授業内容の充実を図る。

⑥音楽

目標：音楽を愛好する心情を育てるとともに、豊かな情操を養う。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 音楽の基礎的な知識を高める取り組みを行う。	B
② 創意工夫して表現する能力を育てる。	B
③ 幅広い鑑賞することによって、音楽への関心を高めていく。	B
結果と分析	
①学習する曲において、まずは基礎的なことを中心に学ばせた。その際、今までに学習したことを生かせるように発言の機会を設けた。何度も復習を繰り返すことにより、音楽の基礎的な知識が定着するようになった。	
②歌唱や器楽演奏をする際には①で学習した記号などを生かしながら表現するように指導した。また表現する際も、自分たちで考えて表現できるよう促した。その結果、その曲にあつた表現をしようとする前向きな行動が見られ、より音楽的に演奏することができるようになってきた。	
③子どもたちが興味を持って鑑賞できる教材を用いて、その鑑賞教材の背景なども知った上で鑑賞させ、感じたことなどを書かせたことで、様々な音楽に興味を持ち鑑賞するようになった。	
次年度への改善点	
①②音楽の知識を増やすことで、より表情豊かに表現できる生徒を育てていきたい。そして、仲間と一緒に表現するという楽しさを伝えていきたい。	
③日本の音楽や、たくさんの国の音楽に触れることで、子どもたちの持つ感性を育てていきたい。鑑賞の際はＩＣＴ機器を利用し、より充実したものを見せていきたい。	

⑦美術

目標：基礎的な力を充実させ、自ら創造する意欲を育てる。

⑧保健体育

目標：生涯体育をめざし、健康な生活を自ら学ぶ態度を育てる。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 各種スポーツ・運動を通じて基礎的運動能力、体力を高める。	B
② 試合形式での授業やグループ学習を行うことにより社会に必要な公正な判断力や協調性を養う。	B
③ 保健学習を通じて、健康な生活の実践に結びつける。	B
結果と分析	
①について、本校の生徒の運動能力の現状は、運動能力が極端に低い生徒がいることと、運動能力が高い生徒の割合は少ないことである。体力テストの結果が去年度と比べて著しい変化はみられなかった。運動が苦手な生徒に対して、自然に体力が向上する取り組みを考える。	
②について、ゲームを行う種目や、体育大会の練習や各種目練習を通じて、互いを尊重してルールを守り、協力する姿勢を身に付けつつある。特に準備や後片付けのときに協力して行動する姿勢が見えるようになった。	
③について、保健学習と実技学習を相互に関連付けて授業を行った。特に熱中症やけがなどは生徒にとっても身近であるため、本題である実践に結び付けられるよう指導を工夫する。	
次年度への改善点	
①自らの健康や体力に关心を持ち、体育が苦手でも体育の授業は好きと思わせるように、達成感を感じさせたり、仲間とのコミュニケーションを持たせたりして、運動能力を向上させる。	
②互いに教え合いながら技能が高めていくようにさせる。	
③生徒が关心を持ち、自分の実生活とより結びつけられるような授業研究を行い、理解・実践しやすいように工夫をしていく。	

⑨技術・家庭

目標：「生きる力」を実践的・体験的に育む。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 生活に必要な基礎的・基本的な知識や技術を習得させる。	B
② 生徒の興味・関心を引きだし、自ら学ぶ意欲を育てる工夫をする。	B
③ 自ら考え判断し表現できる教材を考える。	B
結果と分析	
①色々な分野の情報を子どもたちに授業で紹介し、多種多様な物が溢れている時代だからこそ、自分で判断する力（生きる力）を習得させたく授業展開を進めた。	
②なるべく実物のものや、ＩＣＴ機器を活用し視覚的にもわかりやすい教材作りを行った。	
③同じ制作の教材でも生徒が工夫できるところがあるように指示し、工夫できるところを自ら考え製作した。	
次年度への改善点	
①②生徒が題材に興味・関心をさらにもつことができるよう、色々な情報を利用し、授業にさらに活用していきたい。	
③個人で考えて作成できる部分と、班で話し合いをもって意欲的にさらに取り組めるように授業形態を工夫していきたい。	

2. 道徳心・社会性の育成

(1) 道徳教育の推進

目標：道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 自らのよさに気づき、自他の尊厳を認める態度を養う。	B
② 人の気持ちのわかる生徒を育てる。	B
③ 教材・資料の収集に努め、活用する。	B
④ 「みんなで生き方を考える道徳」や「私たちの道徳」を活用する。	B
結果と分析	
①②日々の教育活動を通して、ちがいを認め合う教育を進めてきたり、行事や班活動などを通して、相手の立場に立って物事を考えさせたりした。	
③道徳の研修などに参加し、様々な資料を収集し、それらを活用して授業を行った。	
④「みんなで生き方を考える道徳」や「私たちの道徳」を活用して授業を行った。	
次年度への改善点	
①②日々の生活の中で、他人を傷つけるような発言や、差別的な言葉を使用している場面が多く見られる。生徒自身が自分やまわりを大切にし、相手の立場に立って物事を考え、行動できるように、学級や学年、授業など様々な場面を通して、引き続き指導していく。	
③④道徳の教科書や教材を生徒の実態に合わせて選定し、活用していく。	

(2) キャリア教育の推進

目標：学力の充実を図り、進路保障に努める。(特に、学習の遅れがちな生徒に対する基礎学力の充実を図るため、その指導対策に努める。)

取り組み内容（指標）	達成状況
① スタディチェック（漢字・計算・英単語）を充実させる。	B
② 3年間を通した進路計画を立て、資料・情報の収集に努める。	B
③ 卒業生の進路の把握に努める。	B
結果と分析	
①スタディチェックについては、各学年とも国語、数学、英語で実施した。 各学年、教科で実施しているので、進路担当で各学年の内容を把握することができていない。 また、実施による検証についても実施できていない。	
②進路計画は1年目職業見学、職業講話、2年目職場体験、3年目進路学習という形でほぼ、 系統立てた活動になっている。	
③卒業生の進路については、個人情報の関係もあり、高校の先生が来校時に口頭で調査する 方法となっているが、聴取内容を掲示板などに載せるなど、記録や共通理解に努めている。	
次年度への改善点	
①スタディチェックについては、国語、数学、英語の各教科会で意義や3年間で系統立てた 方法を考えていくべきである。	
②現在の形を発展させていく。	
③今後も掲示板などのICT機能を使うことにより個人情報の散逸を防ぎつつ共通理解を図 っていく。	

(3) 人権を尊重する教育の推進

目標：ひとりひとりを活かす教育を推進する。

取り組み内容（指標）	達成状況	
① 特別支援を要する生徒とともに歩む仲間づくりを進める。	A	
② 「弱い立場」に置かれた生徒を視野に入れた教育を進める。	A	
③ 「民族クラブ」の充実を図る。	B	
④ 道徳・学校行事等への関連を図る。	B	B
⑤ 校内研修会の充実を図る。	B	
⑥ 地域の人々との連携を深める。	B	
結果と分析		
①日々の教育活動を通して、特別支援を要する生徒とともに歩む仲間づくりをすすめた。 ②いじめに対しては絶対に許さないという姿勢で、学級担任・学年・学校全体で指導をおこなった。 ③民族クラブでは、言葉・楽器・遊びを通して文化の学習に取り組んだ。 ④反戦・平和学習に取り組み、今年度も8・6平和登校日を開催し、命の大切さ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学習した。 ⑤道徳の校内研修会を6月22日に行った、研究授業を行った。 ⑥3校合同人権研修会を開いた。		
次年度への改善点		
①次年度も、日々の活動を通して、特別支援を要する生徒とともに歩む仲間づくりをすすめ、みんながお互いを認め合って過ごしていくける環境づくりを進めていく。 ②次年度も、いじめに対しては絶対に許さないという姿勢で、学級担任・学年・学校全体で指導し、周りの人を大切に思いやれる心を育てていく。 ③今年度は民族クラブへの参加者が少ない現状である。次年度はさらに学年や担任と協力し、参加を促していく。そして、自分たちの関係する国の文化に少しでも触れていくよう努めていく。 ④次年度も、反戦・平和学習に取り組み、平和登校日を開催し、命の大切さ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学習していく。 ⑤⑥次年度も研修会や研究授業を積極的に行い、3校合同の人権研修会や住吉・住之江の人権研修会にも参加していく。		

（4）いじめ・問題行動に対する対応する制度の確立①

目標：規律ある行動のできる集団を育成する。

(4) いじめ・問題行動に対応する制度の確立②

目標：問題を解決できる集団を育成する。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 生徒会執行部↔生徒議会↔各種委員会↔クラスの機能的な連携を深める。	B
② 学校行事などで、自主的な活動のできる集団になるよう指導する。	B
③ 学級集団作りをするうえで、教職間の連携を深める。	B
結果と分析	
①本校の課題や改善すべき点を委員会ごとで話し合い、生徒議会でその改善策を話し合った。生徒中心での話し合いができ、学校の清掃美化運動や、服装など風紀面の見直し運動などを行った。生徒会のみでなく、各種委員会の生徒の協力を得た運動ができた。	
②③学校行事で様々な役割を担いつつ、7Bの学校の生徒会との情報交流などを通して、生徒会執行部の自主性を育んだ。	
次年度への改善点	
これからも学校内外の活動に積極的に取り組みながら、生徒の自主性を育んでいきたい。小学校と協力して地域の清掃を行うなど、小中の連携を図る取り組みをより積極的に行いたい。部活動の生徒のみでなく、たくさんの生徒が自然とあいさつできるようになってきている。今後も朝のあいさつ運動などを継続して行い、自然とあいさつが交わされる学校を目指したい。同様に、風紀を守る意識をもっと生徒会を主体に、生徒全体に働きかけたい。	

(4) いじめ・問題行動に対応する制度の確立③(1年)

目標：「よき師 よき友 手をとりて」

(4) いじめ・問題行動に対応する制度の確立③(2年)

目標：「よき師 よき友 手をとりて」

取り組み内容（指標）	達成状況
① 相手の気持ちを考えて行動しよう。	B
② 授業を大切にし、すすんで学び、教え合う仲間になろう。	B
③ 学校行事、生徒会活動等に積極的に参加し、自分たちでつくりあげていこう。	B
結果と分析	
<p>① 今年度より班活動を取り入れた。班長を中心として友だち同士の協力や仲間意識の向上を目的としてきた。目的に沿って行動することは概ねできていたと思われる。</p> <p>② チャイム着席や速やかな教室移動等、授業を受ける姿勢は定着し、継続できている。はじめと終わりの挨拶や聞く姿勢も良好である。</p> <p>③ 学級代表、体育委員を始めとし、各委員の生徒を中心に行事や取り組みに積極的に参加する様子は広がってきている。委員以外にも各クラスの班長やリーダー的役割を引き受ける生徒も増え、それぞれの活動で力を発揮して取り組むことができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 協力する姿勢や行動が向上しつつある反面、問題解決に向き合う姿勢や自分の役割以外の物事に関心を示すことはできない場面がある。周囲や他者への目配り、気配り、心遣いを増やせるようにさせたい。</p> <p>② 取り組む姿勢は整っているが、内容の理解やテスト（成績）に反映されていない。仲間同士の教え合う姿勢はさらにのばしていく必要がある。</p> <p>③ 3年生になるにあたっては、修学旅行をはじめ、さまざまな行事や取り組みにおいて、生徒自らが考え、動き、運営力をもって成功に繋げるものにさせていきたい。</p>	

(4) いじめ・問題行動に対応する制度の確立③(3年)

目標：「よき師 よき友 手をとりて」

取り組み内容（指標）	達成状況
① 相手の気持ちを考えて行動しよう。	B
② 授業を大切にし、すすんで学び、教え合う仲間になろう。	B
③ 学校行事、生徒会活動等に積極的に参加し、自分たちでつくりあげていこう。	B
結果と分析	
①一部身勝手な行動をとるものはいたが、概ね自分の進路・卒業という共通の目標に向かって協力し合えている。	
②各クラスで班活動を通して班長を中心に互いに協力して取り組み、教え合うことができている。放課後の学習会に参加している生徒も増えてきてはいるが、もう少し早い時期からの取組み声かけが必要であった。	
③修学旅行・体育大会・文化祭においては生徒たちが自ら企画・運営に関わり、各学級、学年で一体感を持って取り組むことができた。	
次年度への改善点	

(5) 特別支援教育の充実

目標：共に学ぶ教育を推進する。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 通常の学級で学ぶと共に、一人ひとりに応じた配慮ある指導を行う。	A
② 一人ひとりの進路について保護者や本人の思いを十分に話しあって進める。	B
③ 特別支援教育の関係諸機関との連携・調整、保護者・地域社会との連携を図る。	B
④ 特別支援教育推進委員会を月1回開催し、特別支援教育を組織的に実践する。	B
⑤ 特別支援教育に関する校内研修会等を計画的に実施し、全教職員の共通理解を深める。	B
結果と分析	
①一人ひとりに応じた配慮あるサポートや指導を行った。 ②1学期、2学期の期末懇談時に学級担任とともに学習状況など話し合った。住之江・聴覚支援学校との進路相談は10月中旬に実施。一般高校進学希望の生徒にも担任とともに丁寧に対応している。3学期には、来年度の支援体制について保護者と確認を取る予定である。 ③連絡帳を通じて学校と家庭との連携に努めた。連絡帳を活用できていない生徒には、保護者との連絡に気をつけて、直接連絡を取って確認した。 ④月1回の特別支援教育推進委員会を開いた。 ⑤5月の第2回の委員会を「拡大特別支援教育推進委員会」として、入級生徒全員の「個別の教育支援計画・学習指導計画を作成し、研修を行った。また職員会議では全教職員の共通理解を深めるため、連絡・報告を毎回行った。	B
次年度への改善点	
①来年度は、入級生徒が13人から15人と増える予定である。その分サポートが手薄にならないよう注意しなければならない。 ②支援学校高等部に進学する場合、学校見学や教育相談ができるだけ早く実施しなければならない。進路希望や療育手帳取得について、丁寧に懇談していく必要がある。 ③連絡帳を毎日確認し、連絡漏れがないように気をつける。連絡帳を活用できていない生徒には、保護者に見せるよう声掛けしていく必要がある。また、大切な連絡は、直接保護者と確認し合い、連絡を密にして信頼関係を崩さないようにする。 ④特別支援教育推進委員会で話し合った内容を、全教職員の共通理解を深めるため、ICT掲示板による報告にして、プリントによる個人情報漏れを無くし簡略化に努める。	

3. 健康に関する現代的課題への対応

目標：「生命の尊重」の精神に基づいて、心身ともに健康な生活習慣を身につけさせる

取り組み内容（指標）	達成状況
① 【健康な生活習慣】学校保健計画を作成し、学校環境衛生の管理に努める。	B
① 【環境整備】環境保護・美化の立場から積極的に清掃活動に取り組む。	B
② 【環境整備】校内の緑化活動に積極的に取り組む。	B
④ 【現代的課題】生命尊重・基本的人権の尊重を基盤として、性教育を進めていく。	B
結果と分析	
①ほぼ計画通り取り組みを実施できた。 ②各学期ごとに実施した「清掃点検週間」活動では、美化委員を中心に細部にわたる点検を通して、環境美化活動の活性化を図ることができた。 ③学期毎に1回、緑化委員を中心に「ふれあい緑化」の活動が実施できた。 ④年間指導計画をもとに、各学年の実態に即した指導を実施できた。1年では「二次性徴」における、心とからだの成長について、映像及び冊子等により細やかな指導を行った。2年では「生命の誕生」をテーマに、助産婦さんの講演・ビデオ学習と「妊婦体験」等を実施した。3年では「LGBT」を取り上げ、ビデオ学習とともに現代社会の課題について考えさせた。	
次年度への改善点	
・保健・美化・緑化委員等、生徒が行事や取り組みに主体的に活動できるように、支援や指導をより深めていく必要がある。 ・性教育においては、保健体育科や学年との連携を密にし、より生徒の発達段階に適した指導内容を検討していくかなければならない。	

4. 教育環境の整備

目標：教育目標達成のため、全教職員と連携を図り、迅速・適正・円滑な事務室の運営を行う。校内美化・緑化・生徒の安全確保に努める。

取り組み内容（指標）	達成状況
① 正確・迅速・計画的・効率的な事務処理に努める。	B
② 生徒・保護者の実態に合った執行に努める。	B
③ 校内緑化を推進し、安全で安心な学習環境を整える。	B
④ 補習箇所の早期発見に努め、教育環境の整備を進める。	B
結果と分析	
①執行計画に基づき、限られた予算の中で適正な予算執行を行うことができた。	
②年々増加する未納者や就学援助受給者の家庭を考慮したうえで、最小限度の経費を算出し、収入・支出予算の編成を行い、保護者に周知徹底を図り徴収及び執行を行った。	
③校内緑化ならびに清掃業務に関しては、年間計画通りに行うことができた。	
④校内老朽化に伴い、破損箇所が年々増えているが、その都度補修を行ってきた。	
次年度への改善点	
①今後もこれまでと遜色のない運営が行われるよう、常に経費削減の意識を持ち、予算を有効活用できるよう適正な執行に努めていく。	
②保護者の家庭経済状況を考えると更なる予算の見直しが必要である。「最小の負担で最大の効果」を目的に据え、改善を行っていかなければならない。	
③現状を維持し、より良い環境整備ができるように努める。	
④校園では対処できない修繕対応などの確認・調査の充実。	